

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102481		
法人名	メディカル・ケア・サービス東北株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福島宮代(1F)		
所在地	福島県福島市宮代字乳児池131		
自己評価作成日	平成23年1月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホームでは、全国展開しております。事業所では法人の運営体制を活用しながら運営をしております。また、入居者様のお誕生日やいろいろなイベントではスタッフ・入居者様が相談して行い小物入れを作成する時は材料を選び、裁縫が得意な利用者様が手作りでプレゼント致しました。お饅頭を召し上がりたい時には、市販ではなく手作りにて提供したりと毎回趣向を変えて実施しており、入居者様の楽しみとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.全国展開の株式会社であることから、事業計画や財務内容を開示し透明性を高めながら事業経営の安定とサービス向上に努めている。また、職員の研鑽意欲を高めるため、褒賞制度を採用し、その結果を運営に反映させている。
 2.単独外出利用者の事故回避等のため、単独外出対応訓練を行い利用者の行動範囲や安全確保に何が重要か等を確認し、12項目のチェックを行うなど全職員で方策を講じるよう努めている。
 3.近隣の幼稚園の卒園式に利用者に参加し、卒園児に手作りの「お守り」をプレゼントして喜ばれるなど園児との交流を育んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義をふまえた会社理念を朝の申し送り時唱和している。他にユニット毎の理念を皆で共有している	地域密着型の意義を踏まえた法人の理念に基づき当事業所及びフロアごとに理念をつくり、管理者と職員は唱和等による意識づけをして日常のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方との交流があり、行事等に参加頂いている。お守り作りをし、新年生になる2つの幼稚園児への毎年の贈呈により幼稚園児との交流を計っている	町内会に加入しており、清掃活動や地域自主防災組織の一員として役割を担っている。事業所内行事へ民生委員の参加協力もあり、地域内幼稚園との交流も定期的、継続的に行われている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を通して地域の人達への理解を深めて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に会議を設け地域包括職員、町内会長、民生委員、家族代表様に来て頂き、事業所の報告と共に、皆様よりの要望や意見があった時は活かすようにしている	各層からなる委員の参加意識が高く、活発な意見交換により事業所内行事への理解協力や防災訓練についても建設的な意見が出され、効果的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて連携に取り組んだり長寿福祉課へ質問や相談などの問い合わせを行っている	日頃より行政担当者との連携が図られており、業務運営上の課題についても情報を共有し取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束禁止事項を掲示や内部研修等を通じ、理解していただき玄関の施錠を含め拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為の禁止事項を掲示し、さらに研修において理解を深めている。単独外出対応訓練により、近隣協力の必要性を含めた12項目の反省点を踏まえながら施錠をしない安全対策へ活かす努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関して学ぶ機会を設けており各自の倫理観に基づいて虐待となる行為が行われないよう注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会の研修参加等で個別にあるのみで全体的にはない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の項目一つ一つをご家族へ確認を行っている再度質問・疑問がある場合は説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様へのカンファレンス時や家族来訪時に適時適切にお話を伺いながら反映するように努めている	運営推進会議では家族代表の委員から積極的な発言がある。独自の全家族へ満足度調査や同意頂いたアンケート調査結果を開示し要望の把握に努め反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見に常に耳を傾け、必要時はヒアリングを行っている	会社社長は年一回は事業所を訪れ「ハートフルカフェ」と称する職員との意見交換の場を設けている。事業所の代表者とは職員の定例会議等で就労環境の整備等率直な意見交換がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の表彰制度や・夏期休暇等で、各自の向上心を持って頂けるよう環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や研修委員会、外部研修等の通知等でスタッフへ参加を促し、質の向上を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修やグループホーム同士の交流、交換研修を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの提供にあたり、必須となる事項であるため対応に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には窓口を設け、ご家族へ日頃のご様子を伝える機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に家族から本人にとって必要なサービスを伺い、優先順位を確認してから提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	2箇所の幼稚園へのお守りの贈呈と福祉作品展への貼り絵や習字の作品を職員とともに入居者様同士で製作し出品している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在を重要視し行事等の時は参加していつでも来て頂ける関係を築いている 月1回は状態のご報告を差し上げている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教え子との面会、旧友との面会や年賀状の投函等による馴染みの関係の継続の支援に取り組んでいる	家族との面会も多く、馴染みの理容院での交流や年賀状作りの支援など継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がいたわり支えあえる円滑な関係を構築の為に日々支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へ継続してお見舞いやお葬式等への参加を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から本人の意向や希望の把握に努めている 困難な場合は家族等を通じ本人本位に近づけるよう努力している	東京センター方式によるアセスメントシートを活用しながら、利用者自身の視点に立った思いや意向の把握に努めている。また家族からの情報や日頃の言動や表情からも本人の気持ちを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段のかかわりや会話等から見つけた情報の中から把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア日報、介護記録を記載し、ユニットのスタッフへの周知する事により現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、目標設定と評価を行いそれに基づいた計画を作成している	東京センター方式のアセスメントシートをケアプランに反映させ、ケース検討会議で話し合い、現状に即した介護計画策定に努めている。利用者に対するサービス提供記録については、計画の支援内容に即した記録がないケースが見られた。	ケアプランの支援内容に即したサービスを提供し、提供した状況がわかるよう記録することが望ましい。また個別記録に基づき評価を行うことにより、見直し等の根拠が明らかになると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間の情報の共有を行い、少しでも気づいた事や申し送り事項介護記録へ記載する事が出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランのニーズは本人やご家族様への発言を引用したり、型に捉われない柔軟に対応できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園への訪問や来訪、町内会の行事参加を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	やまおクリニック・ふれあいクリニックさくらみずへの往診希望のご家族に関する支援している	かかりつけ医の受診支援は家族同伴が多く、利用者ごとの通院ファイルやバイタル表のコピーを家族に提供し、また、医師からも通院ファイルに指示等の記載もあり、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録や口頭での訪問看護師との連携が図られている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員と連携を密に取り、退院に向けて相談の場を設けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランのカンファレンスや契約時に御家族の意思の確認を行い民生員にもご協力を得ている	重度化した場合の医療体制指針についての同意を得ており、看取りについては、指針をもとに介護計画様式に意向確認の欄を設けるなどして介護計画説明の際に確認を行っているが、現在は看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練や研修などの機会を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	植田町睦会自主防災部組織を把握しており地域との協力体制を築いている	事業所として自衛消防団組織を編成し消防計画に基づく防災訓練を年2回定期的に実施している。運営推進会議のなかでも防災についての地域住民の協力の重要性について協議されており、訓練の際の協力も得られている。	年2回の訓練の他に夜間想定避難訓練等も含めた自主的訓練を数多く行うことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を人生の先輩として敬い、親しきの中にもプライバシーを損ねない言葉かけを対応している。できない所は個別にヒヤリングを行い注意を促している	利用者の権利や人格を尊重を基本としたケアに心がけるようプライバシー保護や個人情報保護に関する研修を行うなどして職員に周知を図っている。言葉かけにも注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が遠慮しないで自分の考えを話せる 声かけと支援により思った事を話して頂ける状態になってきている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体面での都合で入居者様に押し付けてしまうことがあるがあくまでも入居者様の気持ちやペースを大切にしてゆきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに配慮しているが時々行き届かない所もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様に調理補助をして頂き、作る楽しみ食する楽しみを提供している 誕生会のケーキ作りやお好み焼等も入居者様が手作りの支援を頂いている	買い物、調理、後片付けなど利用者それぞれの能力に応じて役割を分担し、職員も一緒に同じテーブルを囲んで会話をしながら食事を楽しみ支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表や食事摂取量を記録し、食事のバランスを把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っており、歯科の往診の指導も受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に向けて動いてはいるがまだ完璧ではない	出来るだけトイレでの自立排泄に向け、バイタルチェック表を活用し個別に排泄パターンを把握しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りにこだわった飲食物の摂取や朝の乳製品や夕の個別摂取の乳製品摂取や、朝の棒体操参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制が整っているが入居者様の体調や希望を聞きながら実施している。夜間帯は人手不足になる事から実施していない	毎日入浴は可能であるが、利用者の体調や気分により週3回程度の入浴の利用者が多い。入浴を好まない利用者にも工夫をしながら気分に合わせゆっくりと支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の状況に応じて睡眠時間や休息の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや声掛けを行いながら服薬後の状態確認も注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の楽しみごとや、毎日の生活で行われていた事が今のくらしでも生きがいやほらあいに出来る支援をおこなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	元旦参りや四季の里や茂庭ダム、足湯、紅葉狩り他の場所へのドライブや買い物等へ同行できるよう支援している	日常的な散歩や外出は頻繁に行い気分転換を図っている。遠距離ドライブを行い車窓から景色を見ながら、季節感を味わっていただくなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望があるときは、金銭が入った財布を手渡し、買い物へ出掛けたり金庫で預りしていることをお伝えしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話やお手紙が使用できることを説明し実際に入居者様が行われている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖房も温度や湿度計を用いての環境作りやソリューションウォーターで空間の除菌消臭を行っている。行事の写真、季節の花を飾り入居者様が作成したちぎり絵等を飾り、ゆったりした空間にしている	リビングは健康維持に配慮した環境空間となっている。神棚は男性利用者が毎日整えており、誕生会の写真や寄付によるひな壇飾りなど季節感を採り入れた工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の決められた席にて入居者様同士で思い思いに過ごせる雰囲気が構築されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの物を持参して頂きそれを置いたり飾ったりすることで居室の雰囲気作りに気を配っている	馴染みの家具や家族の写真、利用者手作りの作品など利用者好みの居室となっている。ベッドの配置にも動線上の安全性に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様個々の能力に応じた安全ではないものは配慮し、工夫している		